

第74回全道高等学校演劇発表大会 in 小樽「運河きらめくオタルナイ大会」

上演番号2番 北海道釧路明輝高等学校（釧根支部）

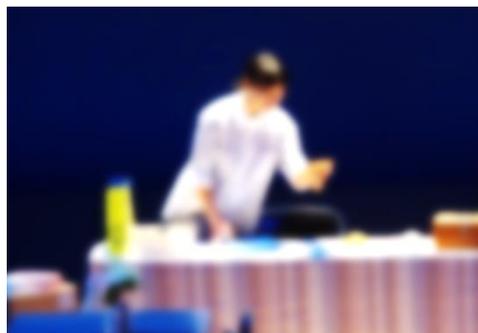
「Grow UP！」 作：矢島千歳 潤色：小山内舜華・釧路明輝高等学校演劇部（生徒創作）

この作品は登場人物一人ひとりの気持ちを描き、成長とは何かを考えさせられる物語だ。始まりは入学式の保健室。新入生の「あかり」は怪我をして保健室に入るが先生の姿はない。しかし、そこには2年生の保健室登校をしている「ゆめ」と「かほ」がいた。それぞれ抱えている不安や苦しみは違うが、「あかり」は将来の苦しさ、「ゆめ」は過去の苦しさ、「かほ」は認められない苦しさといった、今の学生にもみられる悩みを持っていた。その悩みに寄り添ったのが養護教諭になって間もない「木村」だった。「木村」もどのように生徒たちに接していくかを悩んでいた。生徒3人だけでなく、成長の対象に大人も描かれていたのが良かった。劇中では「Grow:成長する」「up:上がる」と表現されていた。題名の「Grow UP!」はまだ成長途中であり、これから更に成長し続けるという意味ではないかという意見が出た。



物語の展開が早く、ストレートに思いが伝わってくる一方で、登場人物がそれぞれに抱く「どこまで触れて(触れられて)よいのかわからない葛藤」が作品のリアリティーをより高めていた。演出面では、幕が開いた瞬間にここが保健室だと感じ取ることができ、掃除ロッカーも劇中で意味のある使い方がされるなど、セットに無駄がなかった。照明は、登場人物が悩みを一人で打ち明けるときに光を一点集中することで、よりわかりやすくなっているという意見が出た。また、水平線を使って感情や表情がわかるのが良かった。音響は、保健室から出るときドアの音について、開ける音があったり、閉める音だけがあったりと、シーンに応じて様々な使い分けの工夫がみられた。

多く話題に上がったのは、保健室登校に対する様々なイメージだ。暗いイメージもあったが、「ゆめ」のような明るい雰囲気の子もいることに意外性を感じたという意見や、先生の中でもきつと賛否がある、保健室登校は一つの選択肢であり、一種の拠り所でもあるなどの意見が出た。



生徒創作ということで、同じ高校生だからこそ共感できる部分が多く、とても考えさせられた。保健室という限定的な空間で、キャラクターの内面や人間関係の変化に重きを置き、各々の成長を感じた非常に見応えのある作品だった。